

9 研究活動と研究環境

進捗状況報告

(1) と (2) について

【9.1 研究環境】

大学研究業績データベースについては、教授会などデータ整備の重要性を訴える場を設けている。また『神学研究』の成果利用の新たな方法として、人権研究の項目を設けたこと、また博士後期課程の学生や大学院研究員の成果を掲載できるための規約改正を行った。また『神学研究』は機関リポジトリにおいて公開する予定である。こうしたことを推進していくため、2005年度より神学部内に研究推進担当の教員を配置し、継続的努力を行っている。

【9.2 研究活動】

成果の情報を整理することについては、『神学部報』にて教員新刊紹介を行い、また学部ホームページにて紹介している。研究論文などの整理は今後の課題である。ただ学内紀要である『神学研究』掲載論文については著作権処理を適切に行い、国立情報学研究所の論文情報データベースにおいて無償公開しているほか、今後稼働が予定されている学内リポジトリへの登録・無償公開を進めており、学内外へ周知されることによって新たな成果の利用方法が期待される。また、科学研究費補助金など外部資金獲得に取り組み、まずは申請件数の増加を図るため、教授会などで周知に努めている。並行して、研究に専念できる環境を整備するよう検討中である。なお学術交流協定大学であるベルン大学（スイス）との共同研究の企画については検討中であり、また延世大学（韓国）・メソジスト神学大学（韓国）との提携による学術交流では研究紀要の交換や講演会講師派遣・受け入れ等の人的交流を進めている。

(3) について

評価を受けたプロジェクトにとどまらず、さらに人権研究の深化のため神学部教員が代表を務める大学共同研究「人間の尊厳と深淵」やキリスト教学のテキスト作成のための学部内共同研究などの研究プロジェクトを立ち上げている。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

研究活動については、さらに中・高等学校との連携教育を模索すべく、中・高等学校生向けの聖書科ワークブックおよびテキストの作成に着手しており、2008年度春からの現場使用と検証を予定している。

学内第三者評価

認証評価でも好評価があったプロジェクト研究は今後も継続することを期待する。また、科研費等の外部資金も獲得に努力することが望ましい。

広く業績を海外にもアピールするために、日本語の場合でも英文のアブストラクトを付けることが望まれる。